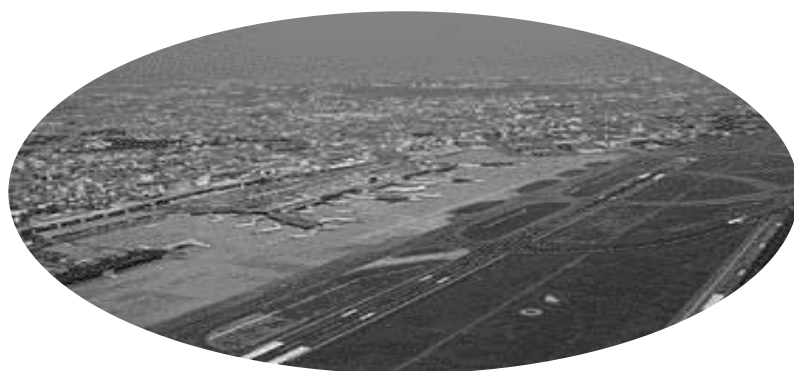


伊丹アピールプラン 行動計画

歴史、自然、文化が調和する臨空都市



平成16年(2004年)3月 伊丹市

はじめに

本市の良さをより多くの方々に知っていただき、住む人がまちへの愛着と誇りを持ちつづけられる、定住志向の高いまちづくりを進め、訪れた人がまちの個性や魅力を感じ、交流人口の増加を図るために、平成15年10月の市民会議提言を受け、「伊丹アピールプラン」を策定した。

「伊丹アピールプラン」は、本市の歴史、自然や文化等の地域資源を最大限に活用しながら、各分野でのまちづくり計画の立案、施策の実施における基本的な考え方を示すとともに、市民、事業者、行政が協働で本市を内外にアピールするための指針として長期に継続して活用するものである。

「伊丹アピールプラン行動計画」は、この伊丹アピールプランの具体的な事業の展開を図っていくために、「**歴史、自然、文化が調和する臨空都市**」をキャッチフレーズとして策定した。

行動計画の事業の実施時期については、短期（おおむね3年以内）・中期（おおむね5年以内）に取り組むものとして区分しているが、できるだけ早期の着手に向けて努力する。

事業実施後は、成果の検証を市民、事業者、行政のそれぞれの視点で行い、内容の修正や以降の事業への活用など、常に効果的な成果が得られるように機動的に対応するものとする。

目 次

1. 「歴史資源」の活用	2
2. 「文化資源」の活用	5
3. 「自然資源」の活用	8
4. 「空港」をいかしたまちづくり	10
5. 「市民活動」の編集	12
6. 市民がアピールする仕組みづくり	16
7. 施策やイベントの連携	18
8. 情報の収集・発信	20
参考. 伊丹の代表的な地域資源	22

1. 「歴史資源」の活用

伊丹市には歴史資源が至るところに存在している。これらは伊丹文化の基盤になっており、これを貴重な遺産として遺すとともに、現在の市民生活の中で最大限に活用することにより、歴史的背景を踏まえた新しい価値観や文化を創造し将来のまちづくりにいかす。

(1) 歴史資源の保全等

城跡、史跡、句碑、社寺、歴史的建造物、旧街道等、伊丹市の豊富な歴史資源の保全を推進するとともに、まちづくりにおける歴史資源の積極的な活用、歴史をテーマとした散策ルートの設定等により、資源と資源、資源と地域のつながりを重視し、編集する。

① 多田街道や旧大坂道など、歴史的街道の沿道整備と散策ルートの設定

事業内容	実施期間
歴史的景観に配慮した道路整備をはじめ沿道建築物を含むまちなみ修景整備を進めながら、街道の解説板やルート図、道標等の整備を行い、街道に近い歴史的資源等も含めた散策ルートを設定する。	短期

(P22 参考(1) 歴史資源②「多田街道」③「旧大坂道」参照)

② 文化財を巡る散策ルートの設定

有岡城跡や旧岡田家酒蔵など市内には多くの文化財があり、これらを含む文化財散策マップの作成と散策ルートの設定を行う。 文化財ボランティア等により市内の重要文化財めぐりの散策ツアー等も実施する。	短期
--	----

③ 伊丹郷町大溝の再現

民間開発地の文化財調査で酒蔵の遺構と合わせて発掘された江戸時代の大溝を再現し、中心市街地の魅力アップを図る。江戸時代の遺構・大溝の説明、周辺の施設紹介などをした案内板を設置し、「歴史のまち伊丹」をアピールする。	短期
---	----

(P22 参考(1) 歴史資源①「伊丹郷町」参照)

④ 弥生時代を訪ねる散策ルートの設定

岩屋地先の空港周辺緑地整備にかかる文化財発掘で大規模な灌漑遺跡が見つかった。全国でも十数例ある弥生前期の堰が組合わさった例は初めてとされている。

空港周辺緑地の体験学習施設では、灌漑遺跡の復元模型や写真パネル等を組合せた展示を行い、児童生徒などへ文化財ボランティア等が解説する。 出土した現場では復元された灌漑施設を見学できるようにするとともに、過去に木棺が出土した口酒井遺跡の公園整備を進めながら、市民が学習できる場を整備し、弥生時代の住居が復元されている田能遺跡までの散策ルートの設定を行う。	中期
--	----

(2) 歴史の継承と活用

イベントや市民活動における歴史資源の活用、地域の歴史の市民向けの紹介、歴史資源の案内解説等の充実、市民による歴史案内ガイドの育成等、歴史を市民あるいは来街者に広く伝えるための取り組みを推進する。

①酒蔵のある街としてのまちづくり

事業内容	実施期間
JR伊丹駅から長寿蔵、旧岡田家酒蔵への歩行者優先道路などに「酒蔵のあるまち」としての案内表示を行う。 酒の街を語るイベント開催、乾杯儀式における清酒利用の促進、古い銘柄の復活の検討、酒関連商品の開発やPRなどを行う。	短期

(P23 参考(1) 歴史資源⑤「江戸の花形・伊丹酒」参照)

②旧岡田家酒蔵などの文化財や歴史資源を活用したイベント

旧岡田家酒蔵は演奏会や講演会の会場としても活用できることから、酒蔵という雰囲気をいかしたイベントの開催、誘致を行う。 有岡城跡での茶会などその他の歴史資源についても、歴史性や文化性を有するイベント会場として積極的に提供する。	短期
---	----

(P23 参考(1) 歴史資源⑥「旧岡田家住宅・酒蔵」参照)

③歴史に関わるテーマによる講座の開催

伊丹にゆかりのある歴史的人物、伊丹郷町、酒文化、伊丹学などのテーマを設定し、多方面からの視点により、市民対象の講座を開催する。	短期
---	----

④猪名野神社と算額

猪名野神社の本殿には「文政9年と嘉永6年に奉納された算額」が保存されている。測量、両替、金利計算や暦の計算などに盛んに使われた和算と伊丹との関わりを知ることができる。

現代の算額コンクールや、算額・和算の全国研究集会などを検討する。 算数や商売の神として縁日の設定をしたり、珠算大会などのイベント開催を検討する。	中期
---	----

(P23 参考(1) 歴史資源⑧「猪名野神社」参照)

⑤有岡城跡の活用

有岡城跡はかつては城下町としての伊丹の中心であったとともに、戦国時代には珍しい惣構えの城であり、後の安土城のモデルとも言われている。また、現在はJR伊丹駅から中心市街地への玄関口となっている。

有岡城跡の歴史的価値をさらにPRし、文化財広場を利用したイベントを開催するなど市民や来街者の憩いの場として活用する。	中期
--	----

(P24 参考(1) 歴史資源⑨「有岡城跡」参照)

(3) 物語の編集

①伊丹にゆかりのある歴史的人物の物語の編集

事業内容	実施期間
本市にゆかりのある歴史的人物や、伊丹郷町、有岡城跡、旧街道、辻の碑等の歴史資源、清酒や俳諧等の伝統文化を中心として、当時の逸話や現在の伊丹文化との関係等、物語を編集し、わかりやすくアピールする。 ◇荒木村重と有岡城跡の物語を編集し、城跡を利用して有岡城の歴史の講話と茶会の開催等を行う。 ◇芭蕉と並び称される俳人である鬼貫の物語を柿衛文庫の作品なども活用して編集する。 ◇昆陽池を築き、昆陽寺を創立し、本市の地名にも残されている行基の物語を編集する。	中期

②岩屋地区の大規模灌漑遺跡と弥生前期の水稻耕作の物語の編集

文化財発掘で見つかった大規模な灌漑遺跡や周辺から出土した銅鐸・粃痕の付いた土器などから弥生時代前期の水稻耕作の模様を想像できる物語をつくる。	中期
---	----

2. 「文化資源」の活用

地域特性のある市民文化や多様な文化施設における専門性の高い、特色ある文化事業は継承、発展させていくとともに、他の行政施策にも積極的に活用し、より伊丹のアピールに重点を置いた事業の実施により、文化都市としてのイメージの定着を図る。

(1) 市民文化の継承と活用

市民文化については、鑑賞や体験をする等、市民が文化に触れる機会の提供に努め、まちの個性と魅力を醸し出す地域資源として継承していくとともに、他の行政施策においても活用し、その価値を積極的にアピールする。

① 中心市街地の文化施設めぐり

本市の中心市街地は、商業・業務施設に加え、いたみホール（文化会館）やアイフォニックホール（音楽ホール）、アイホール（演劇ホール）のほか、美術館、柿衛文庫、工芸センター、旧岡田家住宅や旧石橋家住宅で構成される、みやのまえ文化の郷などの文化施設も多数集積する地区である。

事業内容	実施期間
商業施設や文化施設を周遊・散策してもらうため、ルートや各施設の内容・特徴をわかりやすく紹介する。例えば、2階が酒造り道具のミュージアムである地ビールレストランの長寿蔵や中心市街地で食事をし、みやのまえ文化の郷で文化財や俳諧、美術品、クラフト等に親しむ半日コースなど、楽しみ方も積極的に紹介し、中心市街地の魅力をPRする。	短期

(P26～27 参考(2)文化資源①「中心市街地の文化施設とみやのまえ文化の郷」②「いたみホール」③「アイフォニックホール」④「アイホール」⑤「伊丹市立美術館」⑥「伊丹市立工芸センター」⑦「柿衛文庫」参照)

② 鬼貫顕彰事業のPRと投句事業

鬼貫を顕彰するために実施している俳句募集事業をさらに積極的にPRし、多くの参加を図る。 伊丹を訪れた方に俳句を詠んでもらうために投句箱を中心市街地の集客ポイントに設置するなど、鬼貫、柿衛文庫のあるまちをアピールする。	短期
---	----

(P27 参考(2)文化資源⑧「偉大な俳人 上島鬼貫」参照)

③ JR伊丹駅前広場カリヨンの塔の活用

JR伊丹駅前のモニュメントであるカリヨンの定時毎自動演奏を検討し、駅前でのイベント時に手動演奏を行い、駅前広場をその設え（しつらえ）と合わせ市民、来街者の憩いの場として魅力アップさせる。	短期
---	----

(P27 参考(2)文化資源⑨「カリヨンの塔」参照)

④ 地域に伝わる文化財等の活用

本市には、文化財指定を受けているむぎわら音頭や摂津音頭、ふとん太鼓、だんじりなど地域に密着した文化財がある。それらを継承し、積極的にPRする。	短期
---	----

⑤なぎなたを通して伊丹のアピール

本市は日本の三大私設道場の1つである修武館があり、全日本なぎなた連盟の本部が置かれている。修武館にはなぎなたの二大流派の一つと言われている「天道流」が伝えられているなど、なぎなたが非常に盛んである。平成18年度の「のじぎく兵庫国体」では本市がなぎなた競技の開催市となっている。

事業内容	実施期間
なぎなた競技を市民文化の1つとして積極的にPRするとともに、トップクラスから市民クラスに至る様々な大会の誘致に努める。	短期

⑥「ジュエリーのまち伊丹」のアピール

工芸センターで行っているジュエリーカレッジは、平成13年9月の開講以来、修了生が「日本ジュエリーアート展」などの数々の公募展で好成績を修めており、作品が民間会社で実制作され作家として活動するなど、大きな成果を挙げている。この講座のPRや修了生の作品展を開催するなど、「ジュエリーのまち伊丹」をアピールする。

	短期
--	----

⑦敦煌の壁画に描かれた古代楽器の活用

アイフォニックホールには、敦煌の壁画を基に復元した古代楽器が所蔵されている。この北京と伊丹にしかない貴重な楽器を使った演奏会などのイベントを開催する。

	短期
--	----

⑧地球音楽シリーズ資料の活用

平成15年度で100回を迎えた「地球音楽シリーズ」を通じて収集・作成した資料や映像を活用した資料コーナーをアイフォニックホールのロビー等に設置する。
録音したCD、ビデオなどの活用を検討する。
他の文化施設においての特別展示も検討する。

	中期
--	----

(2) 文化事業への参加拡大

各文化施設での個性的な文化事業については、その内容や楽しみ方を伝え、他の施設や屋外空間に広げていく等、多くの市民が文化への関心と参加意識を持つことができる環境づくりを行う。

①伊丹市展にテーマ部門設定

市展に伊丹の四季の風景など統一的なテーマを設定し、作品を公募する。入選作品については、JR伊丹駅の美術ギャラリーなどに展示し、作品を通して伊丹の良さをアピールする。

	短期
--	----

②アイホール（演劇ホール）で学び演劇の世界へ

アイホールの講座やワークショップを引き続き積極的に開催する。
受講者を通じたアイホールのPR、凱旋公演の誘致等に取り組み、全国発信を行う。

	短期
--	----

③伊丹能、市民オペラの開催

毎年2月に市内の謡曲団体連合会がいたみホールにおいて開催している「伊丹能」は、プロの能演者による日本の伝統芸術の紹介や、こども能楽教室の発表の機会となり、伝統芸術の継承が図られている。

市民オペラは、公募により選出された市民が出演し、毎年3月にいたみホールで公演される。市民管弦楽団「伊丹シティフィル」が音楽を担当し、演出も市内在住の演出家が行うなど、市民主役の公演である。

事業内容	実施期間
伊丹能、市民オペラを市民の参画と協働によるまちづくりとして、行政のみならず市民の支援を得る中で、他都市には無い市民文化としてより積極的にPRする。	短期

④伊丹0号大賞等特色ある展示、イベントの開催

全国から0号サイズ(14cm×19cm)の作品を公募し、全作品をJR伊丹駅構内にある美術ギャラリー伊丹や民間ギャラリーに2週間程度展示している。この作品展は、全国公募作品展としてユニークであり、人気を博している。

このように特色ある展示、イベントを開催し、市外からの来店者が多い大規模店舗などにおいても積極的にPRして鑑賞してもらうなど特色ある伊丹の文化を知ってもらう機会として活用する。	短期
---	----

⑤街角ギャラリーの開催

中心市街地の歩行者優先道路などの路上等で絵画やスケッチ、写真等を展示したギャラリーを開催する。例えば、土・日曜日に市民の出展による昆陽池公園をテーマとした写真展など定期的なギャラリーとして実施する。	短期
---	----

⑥荒牧バラ公園平和モニュメント・地下ホールを活用したイベントの開催

荒牧バラ公園に設置されている平和モニュメント・地下ホールは、特徴的なデザインで芸術的価値も高い。

この施設を活用し、ピースラブコンサートを実施しているが、さらに空間特性を活かして大阪芸術大学短期大学部の学生の作品を展示するなどのイベントを開催する。	短期
---	----

(P29 参考(3) 自然資源⑥「荒牧バラ公園」参照)

3. 「自然資源」の活用

伊丹市は豊かな水や緑を有しており、ネットワークされた自然は市民の憩いの場となっている。特に、昆陽池や瑞ヶ池を中心に、まちなかを川が巡り、水を通じて地域のつながりを形成している。これらの水や緑を通じて、市内各地に点在する様々な地域資源を編集するとともに、自然資源を市民生活や日常生活の中で活用する。

(1) 水辺空間の保全と活用

伊丹市の自然の大きな特長である川や池の水辺について、生態系保護、水質浄化、美化活動等の取り組みにより保全を図るとともに、親水性を高めるための修景、整備やイベントの開催等を行い、市民活動の場として積極的な活用を図る。

① 昆陽池水質浄化と水辺環境の整備

事業内容	実施期間
平成15年度から4カ年で浚渫工事を進めるとともに、水質浄化追跡調査と市民との協働した活動等により昆陽池の水辺環境の整備を図り、野鳥の楽園として市民、来街者の憩いの場にふさわしい環境を保持する。 昆陽池の築造の歴史から自然性、環境問題に至る様々なテーマを取り上げた「昆陽池講座」を開催する。 本市の貴重な地域資源である昆虫館も積極的にPRする。	短期

(P28 参考(3) 自然資源②「野鳥の楽園、昆陽池公園」③「伊丹市昆虫館」参照)

② 河川沿い等を利用したイベントの開催

地域の河川を有効に活用し、水辺空間を利用した集客が見込めるイベントを開催する。	短期
---	----

③ 天神川や天王寺川、公園等を巡る散策ルートの設定

市内には天神川、天王寺川などの小河川が巡り、伊丹市の特徴でもあり、市民に身近な存在にもなっている。

公園等の地域資源も含め、各河川沿いに散策ルートを整備し、道標等を設置するとともに市民と協働した水辺空間の管理、市民活動の場として活用を図る。 ◇天神川ルート 約2.7km 中心市街地から市バスで～昆陽池公園(昆虫館)～天神川緑道～荒牧バラ公園(平和モニュメント)～市バスで中心市街地 ◇天王寺川ルート 約4.7km 中心市街地から市バスで～十六名公園～サンシティ～天王寺川緑道～荒牧バラ公園(平和モニュメント)～市バスで中心市街地 鴻池地先の西池・黒池には非常に珍しい「オニバス」が生息しており、説明板を設置しルートに加える。	短期
--	----

④ 多田街道の水路水質改善等

多田街道に沿って流れる水路の水質改善が進んでいる。水質改善に併せ鯉の放流についても検討する。	中期
--	----

(P22 参考(1) 歴史資源②「多田街道」参照)

(2) 緑の保全と緑化活動の推進

市街地の貴重な緑の保全策を講じるとともに、住宅地等も含めて市域全体での緑化を市民・市民団体、事業者、行政が連携して推進する。地域性や季節感を感じさせる緑化・植栽方法により、地域資源や公共施設周辺の緑化、道路や河川等における並木の整備に努める。

①市民との協働による特色ある散策路づくり

事業内容	実施期間
金岡川については、金岡雨水幹線沿道のみどりのまちづくり協議会を中心に、住民と行政が一体となって沿道の緑化や散策路づくりを行う。	短期

②伊丹花ごよみの情報発信

市内には、2月の緑ヶ丘公園の梅、4月の緑ヶ丘公園、昆陽池公園等の桜、春・秋の荒牧バラ公園のバラ、花摘み園のポピー（春）・ひまわり（夏）・コスモス（秋）など、季節毎に目を楽しませてくれるところがある。これらの開花情報を市のホームページや広報伊丹で発信する。	短期
---	----

③コミュニティ花壇の再整備

市内には市民管理による多くのコミュニティ花壇があるが、季節の草花が少なく、管理が十分でない花壇もあり、花壇の再整備を行う必要がある。

花壇の再整備を行うため、市域を地域分けして地域毎に違う草花を配布し、特色を持たせる。 管理に携わる市民の育成をさらに進め、花壇コンテスト等も充実し、季節の花咲くまちを目指す。	短期
--	----

④オープンガーデンの推奨

平成16年3月に県内に「兵庫オープンガーデンネットワーク」が発足し、各地域で日を設定し、オープンガーデンを開催している。

本市においても、オープンガーデンを推奨し、人や通りを行き交う人が季節の花などを楽しめるまち並みを創出する。	短期
---	----

⑤道路・公園、公共施設などにおける緑化・植栽の実施

市民と協働して各地域の緑化を推進するとともに、道路・公園、公共施設においても緑化・植栽を積極的に実施する。緑化や植栽に際しては、植栽方法や樹種の選定などの方針を検討し、本市の「市民の花」であるツツジの名所づくりなど、特色ある緑化に努める。	短期
---	----

⑥猪名野神社を花の名所に

「長谷寺のボタン」、「矢田寺のあじさい」などのように、花の名所として集客スポットになるよう、検討する。 整備後は「伊丹花ごよみ」で開花情報を提供する。	中期
--	----

(P23 参考(1) 歴史資源⑧「猪名野神社」参照)

4. 「空港」をいかしたまちづくり

空港の存在は伊丹市の大きな特色であり、市外の人による本市のイメージの多くを占めている。空港は人や情報が集まる拠点であり、本市は全国から2時間で来られる便利な都市である。本市のまちづくりにおいて、空港は欠かせないものとして捉え、全国の人、情報、文化の交流拠点であるという特性を最大限に活用する。

(1) 空港利用者に対する地域資源の発信とアクセスの充実

空港利用者の伊丹市への来街、あるいは伊丹市を経由しての空港利用の促進を図るため、大阪国際空港内における本市へのアクセス情報や地域情報の発信機能を拡大させるとともに、空港への市バスの充実や新たな空港アクセス手段を検討する。

①伊丹空港における市内施設等のPR

伊丹空港は、年間1880万人(平成15年実績)の乗降客があり、市の中心市街地へは市バスで20分程度で到達できる場所に位置している。

事業内容	実施期間
到着ロビーで市の地域資源やイベント等のPRを積極的に行う。(例えばみやのまえ文化の郷、昆陽池公園、昆虫館など) 出発ロビーにおいて、離陸直後の空からの伊丹の眺望(昆陽池の日本列島など)をPRする。	短期

(P30 参考(4)伊丹空港①「飛行機から見た昆陽池公園」参照)

②「伊丹空港」呼称の使用

大阪国際空港を表す場合、国等への正式文書以外については「伊丹空港(大阪国際空港)」を使用し、伊丹市の名前を全国発信する。	短期
--	----

③空港と中心市街地を結ぶシャトルバス運行の検討

空港へのアクセスの充実を図るため、空港と中心市街地を結ぶシャトルバス等の運行を検討する。 利用者拡大に向けたPR方策について検討する。	短期
--	----

(2) 全国的なイベントの誘致

空港を経由して全国からアクセスしやすいという利点をいかして、全国規模の会議・学会・コンクール等のイベントの誘致を検討する。

①第61回国民体育大会の実施

平成18年10月に「のじぎく兵庫国体」が開催されるが、伊丹市には「なぎなた競技」の開催市として、全国から多くの人々が訪れる。

市民全体でこの大会を成功裏に開催させ、心暖かく歓迎するとともに、本市の魅力的なスポットなどを回遊していただくことにより、選手や観客にとって心に残る大会とする。	短期
---	----

②「産直市場」「全国のミニイベント」の検討

事業内容	実施期間
全国どこからでも2時間で来られるという強みをいかし、航空路線のある地方から特産物を空輸し、「産直」ものとして販売する仕組みを検討する。 地方で行われている全国的なイベントの参加者等を本市に招き、仙台の七夕まつりのミニ版を開催するなど臨空都市であることをアピールする。	中期

③その他の全国的イベントの誘致

空港が立地する利便性や、中心市街地等にホテルをはじめ、イベントホール等施設が多いことなどをアピールし、全国規模の会議・学会・コンクール等のイベントの本市開催を積極的に誘致する。	中期
---	----

(3) 空港周辺施設の活用

ターミナルビル等の空港施設の他、伊丹市域には、エア・フロント・オアシス下河原、空港周辺緑地等があり、離発着する航空機を見学するには好条件のポイントとなっているため、これらの施設の活用方策について検討する。

①大阪国際空港周辺緑地の整備

平成17年度末の一部開園に向けて空港周辺緑地整備を進めているが、航空機から見えるシンボルマークの整備や「市民の花」であるツツジをアピールできるような植栽整備を図る。 緑地内の体験学習施設とこども文化科学館との連携を図る。 文化財発掘調査で出土した灌漑遺跡の復元について検討する。	短期
--	----

②エア・フロント・オアシス下河原、スカイランドHARADAなどのPRと活用

エア・フロント・オアシス下河原、スカイランドHARADAや現在整備中の空港周辺緑地展望台は、空港を発着する航空機を間近で見学できるスポットであり、積極的にPRすることにより、利用者の増大を図る。	短期
--	----

(P30 参考(4)伊丹空港③「エア・フロント・オアシス下河原」④「スカイランドHARADA」参照)

③こども文化科学館の活用

こども文化科学館では本年度に常設展示をリニューアルし、科学館としての魅力向上を図る。 岩屋遺跡や空港とも連携し、過去(＝遺跡)、現代(＝航空機)、未来(＝こども文化科学館)を体感できるスポットとしてPRする。	短期
--	----

(P30 参考(4)伊丹空港⑤「こども文化科学館」参照)

5. 「市民活動」の編集

伊丹市では市民の自治会活動が活発であり、市民団体の多様な活動も展開されている。これらの活動は熱心ではあるが、それぞれが個別に行われていることから、市民全体へと広がりにくい。自治会や市民活動相互の取り組み、さらには行政の取り組みとの効果的な連携を図り、これまで以上に市民活動を活発化する。

(1) 市民活動相互の連携

個別に行われている市民活動を相互に連携させることによりアピール力を高めるため、イベントの共同・連携した開催等市民活動団体が集まり情報交換できる環境づくりを支援する。

①伊丹総おどり

コミュニティ意識の高揚と世代間交流の一層の推進を図るため、創作を進めてきた「伊丹総おどり」が和・洋2種類の振り付けで完成した。

事業内容	実施期間
「伊丹総おどり」を伊丹発の「おどり」として誰もが参加し踊って楽しめるおどりに発展させる。市民主体によるイベントの企画立案・運営・実技指導などの普及活動を実施する。	短期

②市民まちづくりラウンドテーブル事業の実施

自治会・NPO・各種グループなどの団体や個人、まちづくりに関心を持っている市民が、情報や意見を交換し、各々の活動の充実と協働のまちづくりを実践する場を提供する。	短期
--	----

③地域対抗「いたっボール」大会

「いたっボール」は伊丹市のように雪のない地域で雪合戦を楽しめるように、伊丹市体育指導委員会が考案した伊丹発の新しいファミリースポーツである。

市内17小学校区に設置している「スポーツクラブ21」を通じて普及させ、各クラブ対抗戦を開催するなど、伊丹発の「いたっボール」をPRする。	短期
--	----

④特色ある地域のまちづくり

本市では、地域のまちづくり活動が兵庫県から賞を受けるなど、特色ある地域づくりが市民活動により進められている。

この各地域で進められている市民活動をより活発化させ、連携したイベントの開催等を検討する。	中期
--	----

(P31 参考(5) 市民活動①「活発な市民活動」参照)

(2) 地域資源や公的施設の市民活動への活用

地域資源と市民活動とのつながりをより充実させるために、歴史資源や自然資源、文化・福祉施設等の公的施設、市民利用施設等を、市民の日常生活、市民活動やイベントの場として積極的に活用する。

①多田街道や旧大坂道など、歴史的街道の整備と散策ルートの設定(再掲)

事業内容	実施期間
歴史的景観に配慮した道路整備をはじめ沿道建築物を含むまちなみ修景整備を進めながら、街道の解説板やルート図、道標等の整備を行い、街道に近い歴史的資源等も含めた散策ルートを設定する。	短期

(P22 参考(1) 歴史資源②「多田街道」③「旧大坂道」参照)

②文化財を巡る散策ルートの設定(再掲)

有岡城跡や旧岡田家酒蔵など市内には多くの文化財があり、これらを含む文化財散策マップの作成と散策ルートの設定を行う。 文化財ボランティア等により市内の重要文化財めぐりの散策ツアー等も実施する。	短期
--	----

③天神川や天王寺川、公園等を巡る散策ルートの設定(再掲)

市内には天神川、天王寺川などの小河川が巡り、伊丹市の特徴でもあり、市民に身近な存在にもなっている。

公園等の地域資源も含め、各河川沿いに散策ルートを整備し、道標等を設置するとともに市民と協働した水辺空間の管理、市民活動の場として活用を図る。 ◇天神川ルート 約2.7km 中心市街地から市バスで～昆陽池公園(昆虫館)～天神川緑道～荒牧バラ公園(平和モニュメント)～市バスで中心市街地 ◇天王寺川ルート 約4.7km 中心市街地から市バスで～十六名公園～サンシティ～天王寺川緑道～荒牧バラ公園(平和モニュメント)～市バスで中心市街地 鴻池地先の西池・黒池には非常に珍しい「オニバス」が生息しており、説明板を設置しルートに加える。	短期
--	----

④中心市街地における大学・短大のイベントの誘致

中心市街地の公共施設を使った市内にある大学の学園祭や作品展などのイベントを誘致する。	短期
--	----

⑤カフェストリートの創出

三軒寺前広場をはじめ、にぎわいを創出できるよう、道路上においてオープンカフェの設置を検討する。	短期
---	----

⑥緑道・公園や歴史景観街道をつなぐコースの整備

市内には市民の憩いの場になっている緑道・公園・歴史景観街道などが多く存在するが、それぞれの点を線につなげることが課題になっている。

事業内容	実施期間
これら相互の施設・空間をつなぐ散策コースを設定し、歩道や案内標識を整備する。 ◇中心市街地～伊丹緑地～多田街道(辻の碑)～緑ヶ丘公園(鴻臚館)～市バスで中心市街地へ 緑ヶ丘公園は、2月の梅、4月の桜などが楽しめることをPRする。 ◇中心市街地～伊丹緑地～緑ヶ丘公園(鴻臚館)～瑞ヶ池公園～昆陽池公園(昆虫館)～市バスで中心市街地へ 瑞ヶ池公園は桜、昆陽池公園は桜と野鳥と昆虫館、みやのまえ文化の郷をセットでPRする。	短期

⑦市バス利用で施設めぐり

市内各地に点在する施設や名所を市バスで巡る推奨ルートを設定し、阪急伊丹駅前バスターミナル案内所などでPRするとともに、1日乗車カードを活用し、市内巡りへの市バス利用の促進を図る。 また、市バスに乗ってきた来館者が、バスカードの提示により入館料の割引を受けられるようにし、多くの人たちが施設を訪れるようにする。 ◇JR中山寺駅～荒牧バラ公園～昆陽池公園(昆虫館)～みやのまえ文化の郷(酒蔵・石橋家・工芸センター・美術館・柿衛文庫)～阪急伊丹駅あるいはJR伊丹駅 荒牧バラ公園のバラの見頃、みやのまえ文化の郷の郷町御膳等もPRする。	短期
---	----

(3) 市民活動・企業活動と行政施策との連携

行政施策において市民の参画機会を拡大し、NPOや市民活動団体との連携を推進する。また、企業の地域活動への参加を推進し、市民活動とともに行政施策に積極的に連携させ、一丸となって地域のアピールや地域資源の活用に努める。こうした市民活動や企業活動の効果・影響力を明らかにし、また活動意欲の向上や活動自体のアピールにつなげるため、活動やイベント等への市民参加人数を計測したり、市民周知度あるいは伊丹市のアピールやイメージアップへの貢献度等を評価する手法等を検討する。

①重要文化財旧岡田家住宅・酒蔵築330年記念事業

『重要文化財旧岡田家住宅・酒蔵築330年記念』のタイトルを冠し、統一して関連施設(柿衛文庫・美術館・工芸センター・博物館・長寿蔵)が、伊丹の酒造業と文化にかかわる催しを企画し、従来の各施設の事業を普及・拡大する形で実施する。今後も各館のイベントを一定の期間内で同時期に実施し、トータルで酒蔵のあるまちをアピールする。	短期
--	----

(P23 参考(1)歴史資源⑥「旧岡田家住宅・酒蔵」参照)

②中心市街地まちなみガイドプラン

本年度策定する中心市街地のまちなみガイドプランに基づき、中心市街地を「市の顔」としてふさわしい、個性ある市街地景観と土地利用の誘導を行う。 中心市街地のにぎわい創出のため歩行者優先道路への店舗誘致についても景観に配慮した店舗とする。	短期
--	----

③「住みやすいまち、伊丹」のアピール

事業内容	実施期間
本市は「生活者の視点でつくる住みやすいまち」を総合計画の基本目標に掲げ、市バス事業を行うなど市民生活を支える都市機能が充実している。また空港をはじめ、JR・阪急電車など公共交通機関も整備されており、交通利便性の高いまちとなっている。教育・文化施設、福祉施設、共同利用施設も数多く存在し、それらを活動拠点として、地域福祉や高齢者・障害者の支援活動グループなど市民活動も活発であることから、快適で安全・安心な「住みやすいまち、伊丹」をアピールする。	短期

(P31 参考(5)市民活動①「活発な市民活動」参照)

④特色ある食文化の創出

本市には、かつて伊丹を訪れた文人墨客をもてなした料理を再現した「伊丹郷町御膳」、伊丹の歴史や風土をイメージした創作弁当「伊丹郷町物語」など多彩な食材を生かした食メニューがある。「食」は地域の大きな魅力であり、「伊丹らしさ」が息づく食文化の創出や新しい特産品の開発・育成など、特色ある食文化の創出を図る。	短期
---	----

⑤ひょうたんの里・神津を発信

神津地区では地区住民によるひょうたんづくりが市民活動として定着しており、毎年ひょうたんを育て、加工した作品展が開催されている。

整備中の空港周辺緑地においては、ひょうたん畑のエリアを設け、緑地内の体験学習施設で、作品展やひょうたんづくり、加工についての実演講習会が計画されている。作品展を中心市街地の空き店舗などでも開催し、「ひょうたんの里・神津」を発信する。	中期
--	----

⑥イルミネーションによる夜の景観の創出

毎年クリスマス時期になると、戸建住宅の庭先や、マンションのベランダ等に華やかな電飾が見られる。こうしたイルミネーションなど見て楽しめるような夜間の景観の創出について検討する。	中期
---	----

⑦ファクトリーミュージアムの推進

工場博物館(ファクトリーミュージアム)などの設置を企業に働きかけ、工場見学などと組み合わせ産業都市としての一面をアピールする。	中期
---	----

6. 市民がアピールする仕組みづくり

一人ひとりがアピールの担い手となるためには、市民が地域を知り、愛着を持った上で自らの表現でアピールすることが必要である。このため、地域への理解を深めるための取り組みを積極的に推進し、市民がアピールする仕組みづくりを行う。

(1) 伊丹アピール講座等の開催

市民が地域を知るための取り組みとして、地域資源やまちづくりに関する市民向けの講座の開催を推進する。現在も各担当ごとに開催しているが、さらに部局を超えて様々なテーマから取り上げる分野横断的な講座の開催に努める。

①伊丹アピール講座の開講

事業内容	実施期間
「清酒発祥の地・伊丹」「白鳥」「バラ」などのアピール資源をテーマとした講座を実施する。講座内容を小冊子に編集し、啓発用に活用する。子どもを対象にしたまちの再発見講座なども実施し、アピール人材育成にも努める。	短期

②いたみアピール大使の任命

伊丹市出身の市外居住者を大使に任命し、アピールポイントやイベント情報をメール等で提供し、口コミで伊丹をPRしてもらう。 本市にゆかりのある著名人にも大使の就任を要請し、マスメディア等を通じた伊丹のPRを依頼する。	中期
---	----

(2) 市民による地域情報誌等の製作支援

市民の視点で地域を評価し、紹介するための手段として、市民が中心となって企画、発行する地域情報誌等の製作を支援する。

①アピールポイントの絵葉書作成

旧岡田家酒蔵や長寿蔵、昆陽池公園の白鳥、緑ヶ丘公園の桜・梅林などのアピールポイントを絵葉書にし、市民が市外の知人へ出す葉書として利用してもらうように、観光物産協会事業での実施を検討する。	中期
---	----

②地域活動の発信・交流・ネットワーク化

本市では多くの市民グループが活動を展開している。市民活動等を(仮称)伊丹アピール推進会議・市民まちづくりプラザのホームページ等で発信し、市内の市民グループの交流だけでなく、周辺市町のグループとの交流も図りながらネットワーク化を進める。	中期
---	----

③市民による地域情報誌やホームページに対する支援

市民が市民の視線により地域資源、市民活動、イベント等を紹介する情報誌やホームページについて、製作や運営に対する支援を行う。情報の収集・編集についても市民主体により行い、特色ある発信を行う。	中期
--	----

④バリアフリーマップの作成

人にやさしいまちづくりを進めるため、共同利用施設をはじめとする公共施設のバリアフリー化を計画的に進めている。

事業内容	実施期間
市民活動により、バリアフリー化された散策ルートや施設等をマップにし、紹介する。なお、マップ化の際には民間企業と連携し、民間施設の情報もあわせて紹介する。	中期

(3) ボランティアの充実・拡大

行政施策や地域資源等について学習した市民が、地域で、ボランティアとして、学んだことを紹介し、案内する仕組みの充実・拡大を図る。

①文化財ボランティア講座の継続

現在、文化財ボランティア講座の受講生が教育委員会社会教育課、文化財保存協会等に文化財ボランティアとして登録し、有岡城跡や旧岡田家酒蔵等で訪れる人に施設の説明を行っている。

岩屋遺跡の地域解説者など、新たなボランティアの育成とボランティアのさらなるレベルアップを図るため今後も文化財ボランティア養成講座を継続する。	短期
--	----

②自然解説者の育成

本市には多くの市指定の保存樹がある。また伊丹緑地や昆陽池公園などの自然も多い。これらの伊丹の自然について解説者となる人材育成の講座等を開設する。	中期
--	----

③ボランティアガイドの育成と活用

各種の講座の参加者等を中心にボランティアガイドを育成することにより、登録・派遣制度等を構築し、市民や来街者の観光や散策の案内に活用する。また、障害者や高齢者等の介助や接客に精通した人材も育成し、ボランティアガイドとしても活用する。	中期
---	----

④「歴史の語り部」の育成

郷土の歴史、伝説や地域資源の歴史的解説などを後世に伝えることができる人材を育成する。	中期
--	----

7. 施策やイベントの連携

これまでのアピールはそれぞれ個別に行っていたケースが多く、効率性や市民への周知にも課題があったため、施策やイベント相互の可能な限りの連携を行い、アピール効果を高める。行政だけでなく、市民や事業者等様々な主体との協力、連携に努める。

(1) 統一テーマの設定・集中的開催

個別に実施しているイベント等のアピール効果を高めるため、統一テーマを設定し、時期を統一して実施する等の連携を図る。

①重要文化財旧岡田家住宅・酒蔵築330年記念事業(再掲)

事業内容	実施期間
『重要文化財旧岡田家住宅・酒蔵築330年記念』のタイトルを冠し、統一して関連施設(柿衛文庫・美術館・工芸センター・博物館・長寿蔵)が、伊丹の酒造業と文化にかかわる催しを企画し、従来の各施設の事業を普及・拡大する形で実施する。今後も各館のイベントを一定の期間内で同時期に実施し、トータルで酒蔵のあるまちをアピールする。	短期

(P23 参考(1) 歴史資源⑥「旧岡田家住宅」参照)

②冠事業としての情報発信

市民活動の発表や文化施設の貸し館事業についても一定の時期に集中する事業について統一的な冠名称を付けてPRする。例えば、コーラスグループや大学の音楽関係の公演を一定期間や会場に集中させ、シリーズとしてPRする。	短期
--	----

③道路に愛称設定

本市の代表的な道路、歴史施設や文化施設に通じる道路、住宅地内の特色ある道路に愛称を付け、これを表示することにより、アピール力を高め、地域住民にも親しんでもらう。(例えば酒蔵通り、ケヤキ通り、ハナミズキ通り、バラ通りなど)なお、愛称設定の募集や審査などは市民主体により行う。	短期
--	----

④いたみ八景の選定

本市の代表的な地域資源・風景を「いたみ八景」として、市民からの公募、市民による審査で選定し、PR資源として活用する。公園・水辺・歴史施設など、テーマを変えて、定期的に選定作業を実施するなど、継続的に市民の関心を集めるように工夫する。 市展や俳句のテーマとしても活用する。	短期
--	----

⑤三軒寺前広場イベントの開催

三軒寺前広場において、毎週決まった曜日には何らかのイベントが行われるようにイベントを募集・相互調整し、イベントカレンダーを作成、PRする。三軒寺前広場を中心市街地内の屋外イベント空間として定着させる。(フリーマーケット、朝市、街角ギャラリー、ミニコンサート、ストリートパフォーマンスなど)	中期
--	----

(2) 異分野間・広域的連携の推進

アピールについては、異なる分野間や行政の枠組みを越えた情報交換を行い、幅広く連携に取り組むものとする。

① 3市1町による文化イベントの開催

事業内容	実施期間
阪神北部の伊丹市・宝塚市・川西市・猪名川町が連携しながら、吹奏楽フェスティバルや市町展の優秀作品展などを会場持ちまわりで開催している。この事業の継続や博物館・美術館等において関連した企画展等を開催し、共通入場券等の発行も検討し、相互の利用者数の増加を図る。	短期

② 鉄道沿線や道路沿道等を意識した市町連携による観光PR

鉄道沿線や道路沿道の市町と連携した地域資源の紹介等の観光PRに取り組み、本市への立ち寄り来街者の増大を図る。	中期
--	----

③ 伊丹名産の全国発信、地場産業フェアの開催

南京桃・自然薯をはじめとして、農産物、銘菓や工業製品など、市民や事業所が開発・育成した名産品が伊丹市には多く存在する。

これら名産品を全国発信するとともに、地場産業フェアを中心市街地などで定期的に開催する。	中期
---	----

(3) 市民ぐるみの企画・運営

イベント等の実施にあたっては、企画から運営、参加に至るまで、多くの市民が様々な形で関わる仕組みづくりを推進する。

① イベント実行委員会への市民参画

市民フォーラムなどイベント実行委員会のメンバーを一般市民から公募し、市民ぐるみでイベントの企画・運営を行う事を推進する。市のイベントだけではなく、民間のイベントに対しても、市民を取り込んだ企画・運営を推奨する。	短期
---	----

② イベントや市民活動のコーディネーターの育成

市民活動や市民主体のイベントを広めるため、コーディネーターを育成する必要がある、育成講座や研修等の開催を行う。	短期
---	----

8. 情報の収集・発信

同じ行政情報や地域情報でも、その伝え方、受け取り方で印象も異なることから、情報収集・発信については受け手側に立った手段や方法を工夫する。

(1) 行政情報の効果的発信

広報伊丹、市ホームページ、各計画や施策ごとに作成するパンフレット等について、情報の内容、鮮度、伝える相手、タイミング等を検証しながら、より効果的に活用する。また、市役所や各支所等における情報案内や、駅・空港等多くの市民が集まる場所での情報発信を充実する。

① JR伊丹駅デッキ上への案内板の設置

事業内容	実施期間
年間1,850万人(平成14年10月から1年間)というダイヤモンドシティテラスへの来店者を中心市街地へ誘引するため、デッキ上に案内板等を新設し、イベント情報やアピール資源をPRする。	短期

② 伊丹市ホームページの魅力アップ

地域資源やイベント、市民活動等の総合情報も含め、わかりやすく魅力的なホームページづくりを行う。	短期
---	----

③ 伊丹の地域資源のガイドブックの製作

歴史や文化、自然などの地域資源を分かりやすく解説するとともに、交通機関や所要時間、そこで行われるイベントや市民活動等の情報を掲載した小冊子を作成し、PRに活用する。	中期
--	----

(2) 多様な情報媒体の活用

テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・FMいたみやCATV等の情報媒体に、市民活動やイベント等のアピール情報を積極的に提供し、活用を図る。

① (仮称) 伊丹アピール推進会議のホームページの構築

(仮称) 伊丹アピール推進会議のホームページを作成し、市民による地域情報発信の媒体として活用する。 複数の市民活動やイベントが共通のコンセプトで相互に連携したものであれば、市民プロジェクトとしてもポスターやチラシを作成し、PRへの積極的な協力を行う。	短期
--	----

② FMいたみやCATV等の活用

FMいたみやCATVを、市民活動やイベント、行政情報、議会情報の発信などアピールに活用する。 その他の新聞、テレビ、ラジオなどのマスメディアを通じた地域情報の発信にも努める。	短期
--	----

③ 「伊丹アピールプラン」の推進と発信

「伊丹アピールプラン」は、この計画自体がアピール資源といえる。ホームページやFMいたみ、CATV、新聞・雑誌などのメディアを通じ、「伊丹アピールプラン」を全国発信する。 伊丹アピールフォーラムを開催し、プランの周知を図るとともに、啓発用パンフレットを作成して地域資源を効果的に発信する。	短期
--	----

(3) 市民・企業の情報媒体との連携

市民団体等のパンフレットやミニコミ誌、企業のホームページ、広報誌、商品等の情報媒体とも連携し、アピールを推進する。

①伊丹市ホームページの企業等ホームページとのリンク

事業内容	実施期間
市内の事業所や集客施設、市民活動団体のホームページと伊丹市ホームページとのリンクを設定し、インターネットからアクセスした人が伊丹の様々な地域情報を取得しやすいように企業等に働きかける。	短期

②交通広告媒体の活用

阪急やJR、市バスとの連携により、駅貼や情報誌などの交通広告媒体を活用し、伊丹の地域資源、散策ルート、イベント等をPRする。	短期
--	----

③市内立地企業等の広告・冊子への伊丹の地域情報紹介の要請

企業が実施する広告・冊子において、伊丹の特色等の紹介を要請し、企業等を通じた伊丹のPRに務める。 商店街等が製作するマップ等においても市の施設情報を加えるよう、働きかける。	中期
---	----

参考. 伊丹の代表的な地域資源

(1) 歴史資源

①伊丹郷町 (いたみごうちょう)

伊丹村を中心とした15ヶ村の集まりの総称で、江戸時代初期は幕府領であったが、1661(寛文元)年にうち10ヶ村が近衛家領となり、摂関家に保護される形で酒造業が栄え、盛時には80軒近い酒造家が軒を並べていた。伊丹郷町は、酒造業が近衛家の奨励のもと一層発達し、江戸をはじめ諸国に送り出され、酒造家のもとには、全国から文人墨客がやってくるようになり、酒造家の旦那衆も俳諧をたしなむなどして、文化的薫りの高い町としても発展した。



②多田街道

多田街道は伊丹郷町から北へ延びる主要な道路で、北の口を起点に北村を通り、川西の久代、栄根を経由し多田神社へ続く参詣ルートである。多田街道の沿道にある北村地区は辻の碑や教善寺といった歴史資源もある。また、市の景観形成道路の指定を受け、地域住民の協力により街道沿いの家並みが整っている。



③旧大坂道

旧大坂道は旧伊丹郷町と大坂や尼崎方面を結ぶ主要な道路で町場を形成していた。通りの景観を特徴づけているのは厨子二階建てをはじめとする町家で、中には酒造りで栄えた近世の伊丹をしのぼせる酒蔵が見られる。通りは、南北に直線的な形態を持っており、これに交差する路地的な通りは、幅員が狭く、表通りである旧大坂道との交差点がT字型になっていることから、視線の抜けが少ない。また、有岡城惣構えの南の砦であった「ひよどり塚」が家並みの背後に見える。



④旧西国街道

律令制によって唯一の大路として定められた都と太宰府を結ぶ古代山陽道の江戸時代以降の呼称である。この山陽道は中国・朝鮮からの使節や技術者の一行も通う大路として重要であった。江戸時代に入り、古代山陽道は東海道をはじめとする五街道の整備により脇街道となったが、東海道伏見宿から分かれ、山崎から西宮宿までを「山崎通り」、通称西国街道と呼ばれた。毘陽は宿場町となり本陣が置かれた。



⑤江戸の花形・伊丹酒

江戸時代の伊丹は酒造りのまちで、これにまつわる桶や樽職人・臼屋(精米)・薦(こも)造りなどの職人も集まり、人々の生活、まちの経済の中心は江戸積み酒の酒造業であった。摂津の猪名川上流の伊丹・池田・鴻池(伊丹市)の酒造家は酒造りに使う米すべてに精白米を使用した諸白(澄み酒)で、麴米・蒸米・水を3回に分けて酒を造る「三段仕込み」といわれる清酒醸造法を開発した。現在の清酒もこの方法で造られている。江戸時代、京・大坂などから送られる諸品は「下り物」と称され、酒も「下り酒」として江戸で高い評価を受けた。寛政11年(1799年)刊の「日本山海名産図会＝伊丹市立博物館所蔵」には、「伊丹は日本上酒の始とも言べし」と記されている。特に伊丹の酒は丹釀(たんじょう)と賞賛され、将軍の御膳酒になった銘柄もあり、江戸・古川柳にも伊丹酒を詠んだ句が多くある。しかし、一部の銘柄を除き江戸後期から明治にかけて伊丹の酒造業は衰退し、醸造を停止したが、「剣菱」や「男山」など現在も他産地に引継がれ醸造されているものもある。なお、伊丹市鴻池には、「清酒発祥の地」の伝説を示す石碑「鴻池稻荷祠碑」が建っている。



⑥旧岡田家住宅・酒蔵

江戸時代の延宝2年(1674年)に建てられた町家と約40年後に増設された酒蔵である。店舗は県内に現存する最古の町家で、年代が明らかな17世紀の町家としては全国的にも貴重である。また、酒蔵は現存するものでは日本最古で、江戸時代に隆盛を極めた伊丹の酒造業の歴史を伝える重要な文化財で、平成4年に国の重要文化財の指定を受けている。店の間は当時の帳場を再現するとともに江戸時代のかまどを保存処理し、展示している他、酒蔵は照明・音響装置を備え、多目的ホールとして活用することも可能である。この旧岡田家住宅(店舗・酒蔵)のほか、旧石橋家住宅、美術館、柿衛文庫、工芸センターを含め「みやのまえ文化の郷」を構成している。



阪急伊丹駅あるいはJR伊丹駅から徒歩で5分程度のところにある。

⑦旧石橋家住宅

県の文化財指定の旧石橋家住宅は、江戸時代後期に建てられた商家で、主屋の正面は厨子二階の塗り込めの軒裏と虫籠(むしこ)窓、出格子窓、正面中央の摺り揚げ、出入口装置やバツリ床机、揚見世など、建設当初の店構えを残している。下店では全国の工芸作家作品の展示販売をするほか、火鉢や机、筆筒などを展示し当時の商家を再現している。また、木曜日～日曜日まで5人以上で予約すれば、郷町御膳が食べられる。



阪急伊丹駅あるいはJR伊丹駅から徒歩5分程度。

⑧猪名野神社

江戸時代、伊丹郷町の氏神として、本殿は貞享3年(1686年)に建立され、境内には酒造家や商人の寄進による97基の石灯籠が並んでいる。戦国時代の武将・荒木村重の居城であった有岡城の惣構えの北端「岸の砦」が置かれていた所でもあり、境内西側には土塁と堀跡が残っており、JR伊丹駅前の有岡城本丸跡とともに国指定史跡となっている。また、境内にあるムクロジ(無患子)は樹高13.5mの巨木で市の文化財の指定を受けている。

阪急伊丹駅から徒歩5分、JR伊丹駅から徒歩10分で、伊丹緑地の南の入口ともなっている。



⑨有岡城跡

有岡城は、戦国時代末期の武将・荒木村重の居城で、侍屋敷、町屋ごとに堀や土塁で囲んだ惣構えの城、難攻不落の城で、ポルトガル人宣教師、ルイス・フロイスが「甚だ壮大にして見事なる城」と書き残すほどの名城であった。村重が信長に背き天正7年(1579年)落城、その後廃城となったが、後の安土城のモデルになったとも言われている。昭和54年と63年に国指定史跡となり、現在は石垣の上に本丸跡を一部復元し、公園として整備されている。

JR伊丹駅前、阪急伊丹駅からは徒歩7分程度。



⑩清酒発祥の地、鴻池稲荷祠碑(こうのいけいなりしひ)

清酒発祥の地「鴻池」の児童遊園地内に建っている鴻池家の由来を記した石碑で、江戸時代後期の儒学者中井履軒が寛政12年(1800年)ごろ書いた漢文が刻まれている。石碑は亀形の台石「亀趺(きふ)」の上に立ち、中国古代の貨幣「布貨(ふか)」の形をしており、碑文には、鴻池初代の新六は山中鹿之助の子孫で、慶長5年(1600年)鴻池村で清酒「双白澄酒(もろはくすみざけ)」を造ることに成功し、これが鴻池家の繁栄の基礎となったと記されている。

市バスJR伊丹・阪急伊丹両駅前2番のりばから荒牧公園行きで鴻池下車、徒歩3分。



⑪伊丹廃寺跡

昭和41年に国の史跡指定を受けている伊丹廃寺跡は、奈良の法隆寺と同じ伽藍配置で建てられた白鳳時代の寺院跡で、金堂基壇や朱塗りの北門などが復元され、史跡公園として整備されている。発掘調査による出土品は、県指定文化財で、市立博物館に一括保存・展示されている。中でも、塔の飾り金具である水煙や風鐸などの金属製品は、全国でも出土例が少ない貴重な資料である。

市バスJR伊丹駅6番のりば、または阪急伊丹駅5番のりばから山本団地行きで県高前下車すぐ。



⑫昆陽寺(にやでら)

昆陽寺は、奈良時代の名僧、行基が創立した畿内49院の一つで、天平3年(731年)に創建されたとされる。朱塗りの山門と山門内に安置されている広目天・多門天立像、境内の観音堂が県の指定文化財となっている。また、境内地北西には伊丹市の保存樹木であるシノキがある。昆陽寺から1km東には行基が同じく天平3年に築造した農業用のため池を埋め立てて整備された野鳥の楽園、昆陽池公園があり、市民はもとより阪神間からの来園者も多い。

昆陽寺へは、市バス阪急伊丹駅およびJR伊丹駅2番のりばから昆陽里行きで昆陽里下車、東へ100mで所要時間は20分程度。



⑬御願塚古墳(ごがづかこふん)

古墳時代中期(5世紀)に築造された帆立貝式古墳(前方後円墳の一種)。全長52mで馬蹄型の二重の周濠を持つ。前方部から後円部に至るくびれ部分で祭祀場と見られる方形の造り出し部が円筒はにわ列とともに発見されている。昭和41年には県の文化財指定を受けており、地域の文化財を守る会の活動により清掃等の管理が行われている。

阪急稲野駅から西へ徒歩で5分程度のところにある。



⑭辻の碑(つじのいしぶみ)

辻の碑は旧西国街道と旧多田街道の交差する辻に建っている。表面の銘文は長年の風雨により摩滅し、「従東寺十里」のほかは読み取れない。記録によると、この地は旧摂津の国の国境からほぼ等距離、つまり“摂津のへそ”の位置にあったことを示している。今は、市の文化財に指定され、碑を祠に納め、石張りの広場として整備されている。

市バスJR伊丹駅前5番のりば、阪急伊丹駅前6番のりばから山本団地行きで辻村下車、東へ150m。



⑮北少路村(きたしょうじむら)

元禄時代の伊丹郷町を構成する15ヶ村の1つ。大坂・尼崎から中山・有馬へ抜ける街道筋で郷町の北の端に位置し、商業を中心に発達した町屋として長い歴史を持つ。猪名野神社への参道としての表通りと回遊性を持った裏通りで構成されていた。都市景観形成道路として指定している地区は、商店街として栄えた表通りに面した重要な位置を占める部分である。村内には繰綿問屋の玉屋、麻田藩札の銀主となった溜屋、大坂御用酒積替所を開いた大鹿屋らの有力商人がいた。石橋家は北少路村で紙と金物の小売業の商家であったが、明治以降は酒造業を始め日用品の雑貨商を営んでいた。



⑯ワシントンの桜は伊丹産

アメリカ合衆国の首都、ワシントンD. Cで毎春、全米から観光客を集める「ポトマック河畔の桜」は戦前、日本から贈られたもので、その苗は現在の伊丹市東野の久保武兵衛氏が生産したもの。この桜のお返しとしてアメリカは大正5年、「返礼」の花言葉を持つアメリカ・ハナミズキ40本を日本に贈り、東野にも2本が届いたが枯れてしまっていた。この誇りある歴史を伊丹市民に知らせようと、市内の郷土史研究グループの調査で東京都立園芸高校にこのハナミズキの子孫があることをつき止め、同校から苗木の寄贈を受け東野地区にある荻野小学校に植えられており、毎春、美しい白い花を咲かせている。



(2) 文化資源

① 中心市街地の文化施設とみやのまえ文化の郷

JR伊丹駅、阪急伊丹駅周辺は本市の中心市街地でダイヤモンドシティテラスなどの商業集積地区であるとともに、いたみホールや音楽ホール、演劇ホールのほか、美術館、日本三大俳諧コレクションの1つである柿衛文庫、工芸センター、国の重要文化財に指定された江戸初期の酒蔵や江戸後期の町屋で構成される「みやのまえ文化の郷」など文化施設があり、ゆっくり文化が楽しめる。



② いたみホール (文化会館)

音楽や演劇を含めた総合芸術実践の場として、客席数約1,200の大ホール、ミニコンサートや音楽・演劇などの練習に適した多目的ホール、日常の文化活動やコミュニティの場としても利用できる市民の総合文化の拠点施設。

阪急伊丹駅から徒歩3分、JR伊丹駅から徒歩10分。



③ アイフォニックホール (音楽ホール)

500人収容のメインホール、小ホール、練習場など、市民の音楽鑑賞や発表、練習の場として利用されている。主催事業としては、毎年8回程度、世界の各民族の伝統音楽を紹介する「地球音楽シリーズ」の公演、市民講座「民族文化サロン」がある。また、市民による交響楽団「シティフィル」やコーラスグループの活動拠点でもある。

阪急伊丹駅から徒歩4分あるいはJR伊丹駅から徒歩9分程度でいたみホールの東。



④ アイホール (演劇ホール)

200～300人収容可能な関西小劇場演劇の拠点として広く知られている。自主事業の中心は演劇とダンスで、演劇ファクトリー (演劇講座) やフラメンコ教室、ダンスワークショップなどの自主講座も行っている。また、プロジェクト・ナビの北村想を塾長とする戯曲 (演劇台本) を学ぶ「伊丹想流私塾」も開講している。

JR伊丹駅前で阪急伊丹駅からは徒歩10分程度。



⑤ 伊丹市立美術館

「諷刺とユーモア」をコレクションの基本概念とし、19世紀フランスの美術を代表する作家の一人であるオノレ・ドーミエの2,000点を超える諷刺版画や49点の彫刻、4点の油彩を核として、同時代の諷刺画家たちの作品を多く収蔵している。また、同じくフランスのラウル・デュフィの代表的油彩「海の女神」をはじめとして、明るく楽しいアメリカ現代作家の大作版画、日本の現代作家の絵画、彫刻も少数ながら収蔵している。みやのまえ文化の郷を構成している。

阪急伊丹駅あるいはJR伊丹駅から徒歩9分程度。



⑥伊丹市立工芸センター

全国的にも珍しい公立の工芸（クラフト）の振興施設。毎年1回、公募による「伊丹国際クラフト展」を開催しており、国内外から多くの応募がある。また、国内外の伝統的工芸品や機能的・デザインの優れた工芸品を紹介する企画展を年間を通して開催している。また、デザインや手織りなど各種工芸講座や講演会なども開設している。隣接する新町家の2階にはガラス工芸品の展示とプロのジュエリー作家育成を目指す伊丹ジュエリーカレッジも開設しており、企画展入場は無料である。

阪急伊丹駅あるいはJR伊丹駅から徒歩9分程度。



⑦柿衛文庫（かきもりぶんこ）

清酒醸造で栄えた江戸時代の伊丹では、俳諧文化が華開き、文人墨客の往来も頻繁であった。この中で蓄積された文化遺産に故・岡田利兵衛さん（雅号・柿衛）の系統的な俳諧資料の収集物を加えて発足した俳諧の拠点施設。収蔵品は「柿衛本奥の細道」などの和本や松尾芭蕉の「ふる池や蛙飛込水のおと」の真筆短冊など9,500点に及び、東大の「洒竹・竹冷文庫」、天理大学の「綿屋文庫」と並ぶ日本3大俳諧コレクションの1つに数えられている。毎年6月の柿衛忌には、俳文学研究の進展を願って若手の俳諧研究者に柿衛賞が贈られる。

阪急伊丹駅あるいはJR伊丹駅から徒歩9分程度。



⑧偉大な俳人 上島鬼貫（うえしま おにつら）

上島鬼貫は万治4年（1661年）伊丹の酒造家の三男として生まれ、池田宗旦が伊丹で開いた俳諧塾、也雲軒にも学び、伊丹風俳諧の若手俊英として成長し、のち、京・大坂で活躍した。松尾芭蕉と並び称される鬼貫の句には「月なくて昼は霞むや昆陽池」など伊丹を詠んだものもみられる。元文3年（1738年）大坂で没したが、明治36年、河東碧梧桐が雑誌「ホトギス」で、「鬼貫忌」の題で句を募集して以来、秋の季語として定まった。柿衛文庫では、毎年8月鬼貫忌に小・中学生、一般の俳句作品を対象としたコンテストを行い「鬼貫賞」の表彰式を行っている。



⑨カリヨンの塔（フランドルの鐘）

JR伊丹駅前広場にあるカリヨンの塔は平成2年（1990年）、国際姉妹都市締結5周年記念としてベルギー王国ハッセルト市からプレゼントされたもの。43個の大小の鐘を組合せたもので自動演奏装置もついており、公共場所のモニュメントとしては西日本最大規模のカリヨンの塔は毎日正午に美しい音色を聞かせてくれる。



(3) 自然資源

①伊丹緑地と3大公園

伊丹緑地は、伊丹段丘・東縁の自然林の中に整備された緑地で、中心市街地の猪名野神社から国道171号線(1.2km)までつづく。中間地点に伊丹飛行場が一望できる展望台があり、木漏れ日が美しい。171号線を渡れば、伊丹の3大公園の緑ヶ丘公園、瑞ヶ池公園、昆陽池公園へ「たんたん小道(遊歩道)」でつながっている。2月は緑ヶ丘公園の観梅、(2月最終土・日曜日は観梅と野点の会)、4月には緑ヶ丘公園、瑞ヶ池公園、昆陽池公園の桜見のほか、緑ヶ丘公園の鴻臚館、昆陽池公園での白鳥や昆虫館の蝶と触れ合うのも楽しい。

阪急伊丹駅あるいはJR伊丹駅から徒歩で所要時間2～3時間程度であり、グループ、家族連れでの半日コースとなる。



②野鳥の楽園、昆陽池公園(こやいけこうえん)

昆陽池公園は、奈良時代の名僧行基が開拓した昆陽池を埋め立てて公園(28ha)として整備された。昆陽池には多くの白鳥とカモが生息し、テレビでもしばしば放映され阪神間から多くの人々が訪れる。春、桜の季節には花見客でも賑わう市民のオアシスである。平成11年7月、池の水質浄化対策として、水鳥にえさをやるための独立した池、給餌池(きゅうじいけ)を設置、野鳥観察橋も新しくした。

市バスJR伊丹・阪急伊丹両駅前4番のりばからサンシティ経由荒牧公園行き、またはJR中山寺行き、松ヶ丘経由西野武庫川センター前行きで松ヶ丘下車、裁判所経由西野武庫川センター前行きで玉田団地前下車すぐ。



③伊丹市昆虫館

昆陽池公園の北東部にある市制施行50周年を記念してオープンした昆虫の博物館。亜熱帯の花が咲き乱れるドーム型温室では、わが国最大級の大きさのオオゴマダラなど約15種1,000匹のチョウが1年中、飛び交っている。このほか、身近な昆虫の世界を再現した拡大ジオラマ、世界の昆虫標本の展示、昆虫生態映像の放映、特別展、各種昆虫講座などを随時、行っている。



④緑ヶ丘公園

緑ヶ丘公園は2つの池を配した7.8haの公園で、マツやサクラの古木があり、落ちついた静かなたたずまいをみせている。下池のほとりには日本建築の伝統技術を残すため市内の大工、左官、建具師ら現在の名工の手により建設された入母屋造りの数寄屋風建物「鴻臚館」があり、呈茶のサービスが受けられる。また、友好都市、中国の仏山市から贈られたあずまやの亭(チン)がある。上池に面して50種400本の梅林があり、毎年2月の最終土・日曜日には「観梅と野点の会」が開かれる。4月には桜見で多に賑わう。

JR伊丹・阪急伊丹両駅から市バス1番のりばから緑ヶ丘2丁目まで10分程度。また、歩いてみたい人には、阪急伊丹駅近くの猪名野神社から伊丹緑地を歩いて30分程度。



⑤瑞ヶ池公園(ずがいけこうえん)

市民の貴重な水がめ(貯水池)。広さは19.3haあり、池の周囲は1.6kmのトリムランニングコースになっている。公園の周囲は桜の名所で、南側には四季折々の花が咲く花壇、幼児向けの遊具なども設けられている。昆陽池公園と緑ヶ丘公園の間に位置し、伊丹緑地を経て中心市街地に至る水と緑のネットワークの一つに挙げられている。

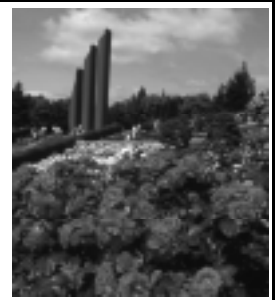
市バスJR伊丹・阪急伊丹両駅前1番のりばから荻野方面行き瑞ヶ池下車すぐ。



⑥荒牧バラ公園

春・秋には、世界のバラ約250種10,000本が1.7haの南欧風のおしゃれな園内一帯に咲き乱れる。伊丹生まれで世界的に名高い「天津乙女」や「マダム・ヴィオレ」などの「ふるさとのバラコーナー」や姉妹都市にちなんだ「ハッセルトコーナー」などもある。また、この公園には、市民の浄財により建設された世界的にも有名な井上武吉氏の作品で公園の地下空間（瞑想空間）から空に聳え立つ3本の柱からなる「平和モニュメント」がある。このバラ公園の整備を契機に、市内では駅前広場や学校にもバラ園ができ、バラの街路樹通りもある。バラ公園南隣には花と緑に関する講習会や展示などを行う市立みどりのプラザがある。

JR伊丹・阪急伊丹両駅市バス2番のりばから荒牧公園行きに乗車15分程度。



⑦伊丹の四季の風情

早春は緑ヶ丘公園の梅林、春は三大公園（緑ヶ丘公園、瑞ヶ池公園、昆陽池公園）の桜並木、初夏は荒牧バラ公園等のバラと市花であるツツジ並木、夏は伊丹緑地の木漏れ日、秋は昆陽池公園周辺の紅葉と荒牧バラ公園のバラ、冬は昆陽池公園の渡り鳥が楽しめる。



(4) 伊丹空港

①飛行機から見た昆陽池公園(こやいけこうえん)

通常の気象条件の時には、伊丹空港を北西に離陸した飛行機は、伊丹市上空で左旋回する。その際に飛行機の窓から伊丹市街地が一望できる。特に日本列島を形どった島がある昆陽池は上空からも非常にわかり易く、目立つ存在となっている。



②大阪国際空港周辺緑地

神津地区で造成が進む空港周辺緑地は、南北1.2km、8.6haの航空機騒音の緩衝緑地として19年度末開園に向け整備を進めている。中間地点には展望施設が計画されており、17年度末には北側一部の開園も予定されている。当該緑地はジェット旅客機の発着を至近距離で見学できる場所となる。



③エア・フロント・オアシス下河原

航空機環境対策の一環として「空港に親しむ緑化空間」を創出するもので、広さ約5,000㎡。離陸コースほぼ直下で飛行機が見られる展望デッキや人工のせせらぎ、日時計、モニュメントなどがあり、梅やアペリアなどの木や花約12,600本が植えられている。飛行機の離発着を見るには絶好の場所にあり、人気を集めている。この公園の東隣では1.6haの「下河原緑地」が整備され、駐車場(計9台分)やトイレも完備し、エア・フロント・オアシス下河原と一体的に利用できる。

市バス阪急伊丹駅前6番のりばから下河原行きで終点下車、南へ徒歩約10分。



④スカイランドHARADA

岩屋に立地する「原田下水処理場」の屋上に建設されている市民開放施設であり、芝生広場(複合遊具)、せせらぎ広場(ゲートボール場)、多目的運動広場で構成されている。伊丹空港に隣接していることから、離着陸する航空機の見学場所としても利用されている。

阪急伊丹駅(阪急伊丹線)より伊丹市バス岩屋循環クリーンスポーツランド前行きで「岩屋東」下車もしくは岩屋循環線、東口酒井下車、徒歩5分。



⑤こども文化科学館

プラネタリウム館、文化センター、児童センターの3館から成る複合施設。直径14メートル、高さ7メートル、収容人員150名のプラネタリウムによる星空の投映。太陽系サイクリング、ロケット打上げなどの常設展示で、こども達の科学する心の育成支援。さらに、子どもや保護者向けの、天文・科学・工作などの様々な講座・イベントを実施。また、児童センターでは、各種遊具やソフトを提供し、地域の児童健全育成の場を創出している。

市バスJR伊丹駅前5番乗り場から、空港線で神津下車すぐ。阪急伊丹駅前6番乗り場から、岩屋循環または空港線で神津下車すぐ。



(5) 市民活動

①活発な市民活動

本市は、17小学校単位とする地区社会福祉協議会が地域の特色あるまちづくり活動として、リバーサイドフェスタ、伊丹ふれあい夏まつり、北部ふれあい祭り、ひょうたんの里づくりなどの活動を展開している。また自治会連合会をはじめ4つの団体の連携により、伊丹総おどり「WASSHOIいたみ」の曲と踊りを創作し、平成16年夏の地域イベントから市内一斉に、3世代が舞い踊る。



②「伊丹市まちづくり基本条例」

「伊丹市まちづくり基本条例」は、平成15年10月から施行されたもので、真の市民自治の実現を図るため、市民の参画と協働によるまちづくりを進めるうえでの基本的事項を定めた条例である。条例策定にあたっては、まちづくり基本条例をつくる市民会議（公募委員15名と各種団体推薦委員15名）から、約1年におよぶ協議をまとめた提言書が提出され、これを基本に条例を策定したものである。まちづくりを進めるための基本理念とそれを実現するための仕組み（情報の共有・対話の場の設置・市民意見表明制度・行政評価・審議会等委員の公募・まちづくりに関する学習機会の提供など）を定めている。



③市民力によるまちづくり

「伊丹市まちづくり基本条例」をもつ伊丹市では市民とともにまちづくりを考え、まちづくりを進めることにしている。平成15年度からスタートした「地域福祉計画」や15年度に策定した「伊丹アピールプラン」「環境基本計画」、16年度中に策定する「障害者計画」「次世代育成支援行動計画」など、今後のまちづくり計画についても、公募市民等の市民会議やタウンミーティングなど多くの市民とともに策定することになっている。これらの実践についても、各種団体、グループなど、市民の参画と協働によるまちづくりを推進し、高齢者、障害者等も安心してくらせるまちを目指している。

また、地域と市が協働して「地区計画制度」を活用したまちづくりが市内11ヶ所で実施され、県の「さわやか街づくり賞」（98年・丹悠会）と「人間サイズのまちづくり賞」（00年・多田街道の景観を創る会、02年・荒牧夢のまち応援団）を受賞した団体もある。



④都市景観形成建築物（白雪ブルワリービレッジ長寿蔵）

清酒発祥の地・伊丹の江戸時代の酒蔵をそのまま利用して造られた地ビールと日本酒のレストラン。地ビールはベルギー風でオリジナル料理やベルギー風料理を賞味できる。2階には伝統的な酒造り道具を展示したミュージアムもあり、伊丹市の都市景観形成建築物に指定されており、市内はもとより遠方からのグループや家族連れで賑わっている。長寿蔵から徒歩数分で国の重要文化財の指定を受けた酒蔵や美術館、工芸センター、俳諧資料を収集展示する柿衛文庫等で構成されるみやのまえ文化の郷がある。

阪急伊丹駅あるいはJR伊丹駅から徒歩5分程度。

